

大阪府環境審議会からの意見

平成 22 年度の主要施策の進捗状況について、第 43 回環境審議会（平成 23 年 11 月 24 日開催）において報告しました。報告に対して委員から寄せられた主な意見と、それに対する府の考え方は以下のとおりです。

意見	府の考え方
<p>目標の達成状況については、主要施策ごとに記載されているが、努力の必要な項目を明確にするため、未達成の項目をリストアップすべきではないか。</p>	<p>来年度から環境審議会への報告の前に環境総合計画部会において点検・評価を行う予定です。この中で、計画どおりに進んでいる項目、努力の必要な項目を整理します。</p>
<p>光化学スモッグ対策について、発生メカニズムの解明や対策効果の把握のため、モニタリング事業あるいは大気汚染状況の解析などの取り組みが足りないのではないか。</p>	<p>光化学オキシダントについては、全国的にほとんど環境基準が達成できていない状態であり、極めて難しい問題だと認識しています。</p> <p>光化学オキシダントは、大気中での反応に伴い生じるものであるため、メカニズムを明らかにしていくのは重要です。</p> <p>このため大気汚染物質の経時的な濃度変化の状況などを解析し、環境農林水産総合研究所と協力して効果的な対策を検討していきます。</p>
<p>「森林資源モニタリング調査」や「家電リサイクルの推進」、「再生品普及促進事業」について、施策や事業を実施した結果などを、もう少し記述すべきではないか。</p>	<p>ご指摘を踏まえまして、大阪府環境白書には、「森林資源モニタリング調査」や「家電リサイクルの推進」、「再生品普及促進事業」について、施策や事業を実施した結果などを記載します。</p> <p>また、今回の講じた施策では、全般的に施策・事業の内容をもう少し詳細に記述していきます。</p>
<p>新エネルギーの導入実績について、導入目標の達成率が低いものについて、現実的に無理なのか、それとも、必要だから、今後も進めていくのか記述すべきではないか。</p> <p>また、大阪府として新エネルギー施策の方向性を、専門的な観点も含めて、しっかりと打ち出してほしい。</p>	<p>環境総合計画策定時には、高めの目標を設定していたが、その後、技術開発が十分進まなかった、価格があまり下がらなかったなど、様々な要因により達成できなかった項目もあります。新エネルギーの今後の方向性については、国の動向も注視しながら、新しいエネルギー社会づくりとして検討していきます。</p>